

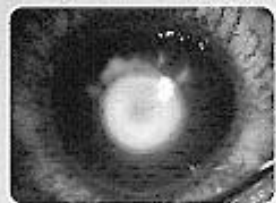
コンタクトレンズ 正しい装用とケア

コンタクトレンズ(CL)ケアの注意点

- ☑ CLに触れる前には石けんできれいに手を洗う
- ☑ 使用したCLは毎回ケアをする(装脱後と装脱前)
- ☑ 洗浄効果、消毒効果の高いケア用品を選択する
- ☑ CLをしっかりこすり洗いで十分にすすぐ
- ☑ レンズケースに残った薬剤は捨て、新しい薬剤を入れる
- ☑ 薬剤の入ったボトルの先端を不潔にしない
- ☑ 薬剤は有効期間で使いきる(容量の少ないボトルがより良い)
- ☑ レンズケースに保存中はレンズケースのふたをきちんと閉める
- ☑ レンズケースは水場の周りに置かない
- ☑ レンズを取り出したレンズケースはきれいに洗浄して自然乾燥する
- ☑ レンズケースは3か月以内に交換する

●詳しくは各ホームページをご覧ください。
日本眼科医会
<http://www.gankaikai.or.jp/>
日本コンタクトレンズ学会
<http://www.clgakkai.jp/>
日本コンタクトレンズ協会
<http://www.jcla.gr.jp/>

コンタクトレンズによる角膜炎感染症



(山口大学 眼科 二島 雅夫)

カラークラウドは安全性が確認されたもの

一方、若い女性に人気のカラークラウドは、実用法によつて今年2月4日からは日本で承認されたもののしか販売できなくなりました。ところが、実際には

承認されていないカラークラウドをインターネットで購入して装用したために、眼障害を起す例が後を絶ちません。カラークラウドはいろいろと問題があります。それをわかつたうえで使用する場合は、安全性が確認されたものを装用するようにしましょう。CLは本来、眼にとっては

異物です。使用を開始するとき、トラブルが起つたときは必ず眼科を受診してください。そして正しく取り扱ってください。それが自分の眼を守る基本なのです。決められたことを守ってCLによるトラブルを予防して、快適な生活を送ってほしいです。

清潔な手で毎日こすり洗いを

増加するSCCLによる眼障害

現在、国内のCL装用者は1500万人から1800万人、国民の7~9人に1人が装用していると推定されています。

CLは材質の違いから、ハードコンタクトレンズ(HCL)とソフトコンタクトレンズ(SCL)に分けられます。SCLには、1日使い捨て型、1週間使い捨て型、2週間頻回交換型、1か月または3か月定期交換型、使用期



医学博士 植田 喜一氏

うべ 喜一 1958年(平成4年)下関市にウエダ眼科を開設。山口大学医学部眼科学教授、日本コンタクトレンズ学会常任理事、日本コンタクトレンズ協会常任理事。

眼科の医師の診察を受けることなく簡単にコンタクトレンズ(CL)を使用したり、レンズケアが不十分で、重篤な角膜炎感染症になる人が増え、社会問題になってきました。「CLを使い始める時には必ず眼科を受診し、正しい使用と適切なレンズケアをし、定期検査を受けること」と注意を促す日本コンタクトレンズ学会常任理事、日本コンタクトレンズ協会理事で山口大学医学部眼科学教授の植田喜一氏(山口県下関市)に、CLの正しい装用方法とケアのあり方について伺いました。

11・1%あります。眼障害を生じたSCLは2週間頻回交換型が最も多くて45・0%、1日使い捨て型が17・6%と、この2種類のSCLだけでも割合以上を占めています。これらのSCL装用者が多いことも背景にありますが、短期間で交換するからSCLが安全だと決めつけるのは危険です。

使用法を守り 定期検査でチェック

また、日本コンタクトレンズ学会と日本眼感染症学会が実施した全国調査では、入院治療を必要とするCLに関連した角膜炎感染症が350例報告されました。多く検出された微生物はアカントアメーバが85例、緑

黴菌が70例でした。これらの微生物がいったん角膜に感染すると治療が難しく、最悪の場合は失明する危険性もあります。

こうした眼障害の原因としては、CLの長時間装用、使用期限を超えた使用などCLの使用上の問題や、CLの洗浄・消毒の不適などレンズケアの問題、定期検査の不適などの問題が多く指摘されています。つまり、装用者が守るべきことをおろそかにしている点が大きなきっかけだと言えます。

1日使い捨て型SCLを1日で交換せずに何日も使う人、2週間頻回交換型を2週間以上使う人がいます。装用者の皆さん、SCLの使用期限は必ず守ってください。

定期検査についても、全く受けていない人が増えていきます。自分では調子良くCLを使っていると思っても、そうでないこともあります。3か月に1回の定期検査でチェックしてもらいましょう。